

夏には「冷房には電気をたくさん使うので省エネしましょう！」とよく呼びかけられますよね。しかし、意外なことに、家庭から排出される二酸化炭素排出量を季節ごとに比較すると、もっとも排出量が多いのはなんと冬なのです。冬には暖房・給湯などで非常に多くのエネルギーを消費します。逆に言えば、工夫次第で冬は省エネのチャンスになります！！

冬の省エネのポイントは機器をうまく選択すること。冬の暖房でもっとも効率の良い機器はなんといっても「こたつ」です。あんな小さなスペースを暖めるだけで、快適に暖をとることができます。ストーブなど他の暖房器具と併用する場合でも、それによって部屋の設定温度を下げる如果能够ならば省エネにつながります。こたつは日本が世界に誇る(?)大変効果的な省エネ製品です。

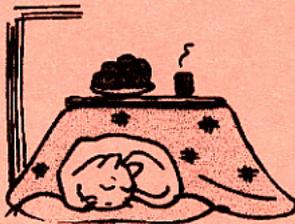
では効率の悪い機器は何かというと電気ストーブやセラミックファンヒーターです。電気は、発電の時にももとの燃料が持っているエネルギーの6~7割を熱として捨ててしまっています。そんな電気を熱に戻して使うのはかなりの無駄。それならば直接、灯油やガスを燃やして熱を得るほうが効率的です。ちなみに灯油ストーブとガスストーブ、どちらが二酸化炭素排

出量が少ないかということとガスストーブです。ガスの方が灯油よりも効率良く燃えるためです。

では、電気のエアコンはどうでしょう。実はエアコンは熱を作り出す機械ではなく、室内と室外の熱をやり取りする機器で(ヒートポンプと呼びます)大変効率が良いのです。部屋全体を暖める場合には、ガスストーブなどより二酸化炭素排出量は少なくてすみます。用途によってうまく機器を使い分け、無理に我慢することなく省エネに取り組んでください。

また、暖房の時には暖かい空気は天井付近にたまりがちです。天井の空気が足下より10℃も高いこともあります。足下も暖められるよう、うまく空気を回す工夫をしてみてください。時には扇風機で空気をかき混ぜることも効果的です。その他、エアコンのフィルターをこまめに掃除する、厚手で長めのカーテンを使って窓から熱が逃げのを防ぐ、暖房の設定温度を低く設定するなど、簡単にできる努力はぜひ継続してください。

もしエアコンを買い替えることがあれば効率の良い製品を選ぶことを忘れずに！



参考文献・資料

「暮らしの中のエネルギー」 岩船由美子 電気学会
「京都市エコチャレンジ」 京都市

◇◇◇ 認定・賞をいただきました ◇◇◇

2002年5月27日 ♥京都府より、「エコ京都21」の認定を受けました。

2002年10月15日 ♥京都市より、環境共生型都市京都推進特別感謝状をいただきました。

2002年10月17日 ♥ソロブチミスト京都-桃華より桃華賞をいただきました。